

令和２年度秋田県健康づくり審議会議事録（要旨）

1 日時

令和３年３月１６日（火）

午後１時３０分～午後３時３０分

2 場所

秋田県歯科医師会館 大会議室

3 出席者

（委員 23 名中 19 名出席）

芦田晃輔委員、鎧トモ子委員、
伊藤伸一委員、梅田由紀子委員、
大越英雄委員、尾野恭一委員、
栗盛寿美子委員、小泉ひろみ委員、
小棚木均委員、小玉弘之委員（会長）、
齋藤カヅ子委員、酒井恵一委員、
佐藤和貴委員、佐藤寿美委員、
白川秀子委員、鈴木明文委員、
畠山桂郎委員、藤原元幸委員（会長代理）、
松田知己委員（五十音順）

4 配付資料

- 資料 1 令和２年度秋田県健康づくり審議会 分科会・部会の開催状況
- 資料 2-1 第３期秋田県がん対策推進計画の中間見直し（案）の概要
- 資料 2-2 第３期秋田県がん対策推進計画における個別目標の達成状況
- 資料 2-3 第３期秋田県がん対策推進計画中間見直し版（案）
- 資料 3 令和３年度健康づくり関連の主要事業
- 参考資料 1 秋田県健康づくり推進条例

- 参考資料 2 秋田県健康づくり審議会組織図

- 参考資料 3 第２期健康秋田 21 計画指標の現状値について

あいさつ

（佐々木健康福祉部長）

県では、平成 29 年度から、県民一人ひとりの健康寿命を延伸し、生きがいや豊かさを実感しながら暮らせる「健康長寿社会」の実現に向け、「健康秋田いきいきアクションプラン」を策定し、健康づくり県民運動として展開しているところであり、県民の健康に対する意識は確実に高まってきていると感じている。

こうした中、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、生活習慣の改善を目的とした各種取組が十分にできなかったほか、集団検診の受診控えが広がるなど、健康づくりを始めとした様々な取組に大きな影響が出た一年となった。来年度以降は、これまでの県民運動により、高まってきている健康づくり意識を停滞させないように、感染予防対策を講じながら、効果的な取組の推進を図ってまいりたい。

さて、本日の審議会では、今年度開催した各分科会等の協議事項の報告や今年度中間見直しを行った第３期がん対策推進計画（案）の報告、来年度の健康づくり関連の主要事業の説明などを議題としている。

来年度においては、今年度に引き続き、県内の著名人や各種メディアを活用した健康づくりに係る周知啓発を図るほか、健康秋田 21 計画や健康秋田いきいきアクションプランの各指標となる「健康づくりに関する調査」の実施、9 月には来年度に延期

となった全国の食生活改善推進員が本県に集う「令和3年度全国食生活改善大会」の開催などが予定されている。

県民の皆様には、このような機会を通して、健康寿命日本一の意義を理解し行動変容に繋げていただけるよう、県としてもより一層積極的に働きかけていきたいと考えている。

来年度5年目を迎える健康寿命日本一に向けた健康づくり県民運動の更なる推進のため、是非、忌憚のない御意見を賜りたい。

委員紹介

～出席者名簿に基づき紹介～

会長選出

～事務局より小玉委員を推薦し、他委員からの同意により選出～

会長代理指名

～小玉会長の指名により、藤原元幸委員が就任～

定足数の報告と会議の成立

～事務局より、過半数の委員の出席に伴い、本審議会の成立を報告～

審議会の公開

～委員の同意により公開にて行うことが決定～

議題 (1)

「令和2年度秋田県健康づくり審議会各分科会等の協議事項の報告について」

(小玉会長)

それでは、次第(1)の令和2年度秋田県健康づくり審議会各分科会等の協議事項の報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

～資料1に基づき説明～

(小玉会長)

ただいまの説明に関して意見や質問等はあるか。

～質問・意見なし～

協議 (2)

「第3期秋田県がん対策推進計画の中間評価と見直しについて」

(小玉会長)

それでは、議題(2)の第3期秋田県がん対策推進計画の中間評価と見直しについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

～資料2-1、2-2、2-3に基づき説明～

(小玉会長)

次に当計画の中間評価を実施したがん対策分科会長である伊藤伸一委員より、今の事務局からの説明に補足する点などを含めてお話しをお願いしたい。

(伊藤委員)

～分科会における協議内容や見直しの概要を説明～

(小玉会長)

今の説明について、委員から質問や今後の進め方についての意見はあるか。

(小棚木委員)

中間評価の中で未達成項目があったが、これは新型コロナウイルス感染症の影響が無ければ達成していたとの解析なのか。

また、伊藤委員からのお話の中にあった HPV ワクチンに係る記載は資料内のどこに記載しているのか。

(武藤健康づくり推進課長)

未達成項目は、主に生活習慣といったがんの1次予防やがん検診関係となっているが、そのほとんどは新型コロナウイルス感染症が流行する前の数値となっており、影響はないものと考えている。

また、HPV ワクチンについては資料 2-3 の 33 ページに記載している。伊藤委員からお話があったとおり、受診者に対しての情報提供についての記載を追加している。

(伊藤委員)

今の説明に補足したい。

素案の段階では、国の見解のみの記載であったが、今の状況における HPV ワクチンの重要性を考え、県として積極的な接種勧奨はできないまでも、市町村に働きかけながら周知を行っていく旨の記載が追加された。

(小棚木委員)

国におけるワクチン接種に伴う後遺症へのサポートが無い中、県としては実質的に接種を進める方向で動くと言うことか。

(武藤健康づくり推進課長)

国が作成したワクチンに係るパンフレット等を活用しながら市町村に情報提供を図っていきたいと考えている。

(三浦保健・疾病対策課長)

これまでのとおり、国の見解に基づき、積極的な接種勧奨を行わないというスタンスには変わらない。引き続き、接種対象者やその保護者等に必要な情報を提供するためのお手伝いをさせていただく。

(藤原委員)

情報提供にあたり、世界各国における状況やワクチンの効果などを含め提供する必要があるのではないか。

(小玉会長)

話は変わるが、職場でのがん検診受診に当たり、休暇を取得できる制度はあるか。

(酒井委員)

現在、データを持ち合わせていないため詳細は答えられないが、各企業によってまちまちではないか。

(小玉会長)

国や県が進めている健康経営においてもそういった概念を広め、がん検診の受診率の向上を図っていくことも重要ではないか。

協議 (3)

「令和3年度健康づくり関連主要事業の説明について」

(小玉会長)

それでは、議題（３）の令和３年度健康づくり関連主要事業の説明について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

～資料３に基づき説明～

（松田委員）

資料１９、２０ ページ記載の来年度４月から９月までのPCR検査における自己負担分の補助事業において、１０月以降の対応についてお伺いしたい。

また、この制度については市町村の一般会計を通過しない制度設計となっているか教えていただきたい。

（三浦保健・疾病対策課長）

事業期間を９月までとしているのは全庁的な指示によるものである。１０月以降においては国の動きを見ながら随時対応していきたい。

また、当制度については保険制度の中での動きとなるため、市町村が絡むところはない。

（小棚木委員）

新年度に新型コロナウイルス感染症に伴う医療従事者への慰労金の給付は実施予定か。

（伊藤（淳）健康福祉部次長）

本日の資料にはないが、この前の２月議会において、令和３年度事業で新型コロナウイルス感染症の入院患者に対応した医療従事者への慰労金が予算化されている。

（小棚木委員）

新型コロナウイルス感染症患者への対応にあたっては、病院一丸となって対応しており、直接的に患者に関わる方以外にもバックアップなどの間接的に関わってくる方が沢山いる。給付対象を限定されてしまうと病院として対応に困惑してしまう部分がある。

（小玉会長）

この事業の財源は国費か。

（伊藤（淳）健康福祉部次長）

財源は臨時交付金であり、内容は各県で独自に設計したものである。

（小玉会長）

病院長としては対象者を区別して慰労金を支給するのは難しいと思う。

今回の内容であると病院内で混乱が生じてしまう恐れがあると思うので、やり方を検討していただきたい。

（伊藤（淳）健康福祉部次長）

なるべく不公平感がないように考えていきたい。

（小泉委員）

１６ ページ、１７ ページに記載の国が行っている新興感染症に係る伝達訓練について、これまでとおり行政機関のみが参加するのではなく、医療関係者も入れた形で実施するようにしていただきたい。

（三浦保健・疾病対策課長）

指摘いただいた内容については、国全体

の動きの中の一つなので、この場で実施できる旨の断言はできないが、考えさせていたいただきたい。

（尾野委員）

全体的な考え方として、新型コロナウイルス感染症に係る事業を実施するために、がん対策等の必要な事業を削ったとのことはないか。

（伊藤（淳）健康福祉部次長）

新型コロナウイルス感染症に係る事業については、基本的に国の補助金や交付金を活用して対応することとしている。

今回の予算編成においても、一般的な運用部分については新型コロナウイルス感染症に係る事業に圧迫されて減額されたとのことはない。

（尾野委員）

資料の事業名の下にある記載は予算の出所を表しているのか。割合的には毎年このような形か。

（伊藤（淳）健康福祉部次長）

各事業の予算内訳であり、国庫補助、諸収入、一般財源などの頭文字で表している。

なお、新型コロナウイルス感染症に係る事業については、将来的な臨時交付金の充当が見込まれるものも一般財源として計上しており、影響していない。

（小玉会長）

秋田県健康づくりにおいては減塩が課題となっているが、食生活改善を推進する立場の方から現状を含めお話をいただきました

い。

（栗盛委員）

当会では、永年、減塩に関する周知啓発等を行っており、県民の食塩摂取量は減少傾向にある。

過去と現在の県民の生活様式を比べると筋子や漬物などからではなく、お菓子などから食塩を摂取するようになっているほか、減塩への関心の有無の二極化が進んでいるなどの特徴が見られる。

今後も減塩や野菜摂取のほか、バランスの良い食事摂取について、食生活改善推進協議会と連携しながら啓発を図っていきたい。

（齋藤委員）

当会では、子どもの頃から薄味でも美味しく感じられる舌を育てられるよう、試食を作り、家庭の味と比べるといった活動も行っている。

来年度は今年度延期になった全国大会も開催されるので、引き続き県民の健康のために活動していきたい。

（小玉会長）

子どもの頃からの健康づくりは非常に重要だと思うが、具体的な事業は教育庁で実施しているのか。

（武藤健康づくり推進課長）

資料には詳しく記載していないが、当課でも各保育所・幼稚園における薄味教室の開催を県栄養士会に委託し実施している。

（小玉会長）

こうした啓発も重要だが、事業を点として捉えず、一定期間経過後の事業評価や追跡した調査を実施することで生涯の健康づくりにも繋がると思うので、こうした視点も取り入れるようにしていただきたい。

(藤原委員)

この度、秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例にオーラルフレイルについての文言が追加されることになった。

オーラルフレイルは、対策を講じれば元の状態に戻るものなので、県民には積極的に検診を受診していただきたい。

協議 (4)

「その他」

(小玉会長)

他になれば、次第 (4) のその他となるが、委員から何か御発言はあるか。

(小棚木委員)

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について、県としてどのように進めるのか、考えをお伺いしたい。

(伊藤 (淳) 健康福祉部次長)

県としても医療従事者への接種終了後に、一般県民への接種を想定していたが、報道のとおり、ワクチンの輸入量や各都道府県への供給量が少ないため、医療従事者への接種は5月までかかってしまうとの見通しとなっている。

一方、一部地域の高齢者への接種は4月から始まる予定となっており、各市町村や各病院と話し合いながら、調整を図っている段階である。

(小玉会長)

最後に、公募委員から何かお話はあるか。

(鎧委員)

資料1 ページ健康づくり地域マスターの活動実績について教えて欲しい。

(事務局)

これまで、健康づくり地域マスター制度の活用について、各保健所や市町村、県版の健康経営認定法人などへの周知を行い、企業や町内会等の住民団体への派遣や紹介を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの市町村での集合型事業が中止になった関係から、県への要請も少ない状況となっている。

来年度以降も健康経営優良法人認定制度等との連携を図っていくほか、引き続きマスター自身の自主活動における周知啓発等をお願いしていきたいと考えている。

(梅田委員)

去年から自宅で栄養・運動指導を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、なかなか思うように活動できない状況となっている。

また、健康づくり地域マスター制度にも協力したいと考えている。

(小玉会長)

それでは、他に意見がないようなので、以上で議事を終了し、進行を事務局へお返す。

閉会

(事務局)

長時間の議論ありがとうございました。

本日いただいた御意見、御提言については、今後の事業の推進に役立ててまいりたい。

これをもって秋田県健康づくり審議会を閉会する。